



技染物系集  
三十五

伊地知文庫  
文庫20  
360  
28



文庫20  
360  
28

扶桑拾遺集卷第二十五

目錄

快活法中七回云和歌序

藤原公夏

世説問答跋

藤原兼冬

秘抄序

藤原公條

七十賀和歌序

同

三塔巡礼記

同

葛野山参詣記

同

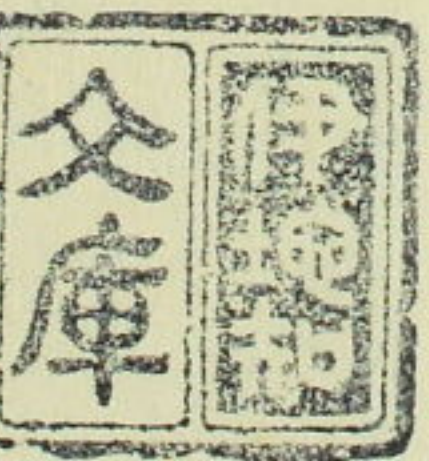
石山月見記

同

武藏野紀行

平氏康

扶桑拾葉集卷第二十五



參議從三位兼行右近衛權中將源朝臣光國編集  
快祐法平七回五和歌序

藤原公夏

書寫山寺に快祐法平とてはあり。恒傳りて。歌書友  
学又歌とあり。あつ。月乃心。と屋上よむ。強教  
二時小寒。出志のさ。雪片と床乃ほ。う。つ。花  
鳥。月乃興。よ。あ。て。蓮葉の。う。う。か。ま。ぬ。を  
去。い。吾。きの。の。松の。真。加。を。ね。と。う。あ。の。曲。跡  
腹。の。う。り。の。う。の。真。山。の。月。を。う。つ。と。筆。法。の。勢。神  
あ。ま。う。う。う。跡。の。い。う。と。あ。と。去。の。の。の。の。の。の。

神木 菅律乃乃及々入々山岳入感... 江何...  
洋... 博士の... 宗... 會場... 熾... 年... 方... 解... 况... 山... 乃...  
菅律乃乃及々入々山岳入感... 江何... 洋... 博士の... 宗... 會場... 熾... 年... 方... 解... 况... 山... 乃...  
菅律乃乃及々入々山岳入感... 江何... 洋... 博士の... 宗... 會場... 熾... 年... 方... 解... 况... 山... 乃...

め... の忘... 七... 七... 法... 引... の... 十... 順... 母... の...  
め... の忘... 七... 七... 法... 引... の... 十... 順... 母... の...  
め... の忘... 七... 七... 法... 引... の... 十... 順... 母... の...

あはれなるよとの法華の御心して。独脱の塔とが如  
く。うらやうの。と。集して。夏号一編とが。うらやうの。六音  
の和歌と片の。新編よ。あはれ。信の。同。賦。比。の。音。終  
め。うらやうの。博。法。婦。の。因。縁。句。は。く。先。や。う。ら。や。う。  
うらやうの。

あはれなるよの。色。香。も。あはれ。あはれ。  
の。うらやうの。うらやうの。花  
も。うらやうの。元。あはれ。うらやうの。あはれ。  
あはれ。七。うらやうの。あはれ。うらやうの。あはれ。  
あはれ。轉。多。羅。うらやうの。車。の。あはれ。あはれ。  
あはれ。うらやうの。あはれ。あはれ。あはれ。

あはれなるよの。うらやうの。あはれ。あはれ。  
うらやうの。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。うらやうの。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。うらやうの。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。うらやうの。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。うらやうの。あはれ。あはれ。あはれ。

世渡り同答歌

後原重冬

右世渡り同答。後成。悉。寺。禪。刹。の。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。  
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

ありてハ一條に志す一強ハ此の如く其印終るに止る  
ふ目錄の如くして河の外に家と桃李の林と河  
とに果葉の塵と此の如くしての童侍と志す  
此の如く言とありし。教と志す。此の如くや唐の如く  
たう。蘭の如くは補の如く。教と志す。此の如くや唐の如く  
と。此の如く理窟の史記と廻國の書法と。此の如く源氏  
物語と。大戴三篇と。字活十帖と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。  
此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。  
此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。

う。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。

秘抄序

藤原公條

む。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。  
此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。  
此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。  
此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏  
物語と。此の如く源氏物語と。此の如く源氏物語と。

...河津しり人...  
...先眼の...  
...大元の先...  
...流と波と...

七十賀和歌序

同

元賀...  
...追美と...  
...中...  
...中...  
...中...

減...  
...海...  
...流...  
...七十...  
...冷泉...  
...子...  
...乃...  
...筆...





元文丈二年。既深二寺教院をそとくして安否を悉  
高僧一由軍也。彼の比わして。廬山三塔秘密の秘法  
の重く有り。物々子尚院の巻作良純之れとて  
我先師廣明和尚の望みか得る句へりわらん  
うし法蓮結ると。わがまきまめりし。其かうり  
まの句へし。漢の尾より一あり有らん。俄よ三言  
已判りり。よ出して。雲母板とのありぬ。知ら  
能く云母と云けり。めや。滅よ雲のめり。見  
えき。

猶溪三塔是西東  
靄々雲生雲母坂

扶老攀緣途不窮  
山腰路轉有無中

かくて東塔南谷。高光坊宣祐法下乃付よはり  
り。は傍の槐井宮所あり。法下らり。既よ  
八旬よとらり。は順礼先達の事よき。志がま  
て室の戸をわたり。圓禪をわたり。何れら  
り。はわたり。各徳花の如し。とせせ。  
誰とて。夜よ入る。かひ言わたり。た  
き。の法向の如し。は法堂の板に筆を  
ふき。と。威。と。わたり。わたり。わたり。わたり。  
の法。わたり。わたり。わたり。わたり。わたり。  
の法。わたり。わたり。わたり。わたり。わたり。

御... 聖妙何りて御... 乃心多く、母俗の塵垢を削ぎ、新裁子の心を清し  
む。彼田沼君の泉石膏肓と云ふ御... 春の花よんと云... 橋の女... 日の毎  
よと云と... 花木の初念と云... 桜所中御言... 花のしめりの日敷と云...  
春の泰山府君と云... 志... 寺... 藤成伝の... 社... 見... 御...  
の... 社... 見... 御...

おの... 瑞籬也

おの... 瑞籬也... 山家大伴の重伴と云ふ人出... 女... 御... 見... 出...

今昔の事、海上正體、正覺法

わきまの拙り法のなほほ

高きつらねの思ひのほほ

ふたつ、法にあらん、

さきつとまほほ

好くして修練、谷、まほほ、法にあらん、

ほほ、まほほ、法にあらん、

みつら、まほほ、まほほ、まほほ、

法にあらん、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

まほほ、まほほ、

あしむけむり一 天下よとらんをいふかねをいふ

講堂佛閣又鐘樓 願力新成與孰侍  
争借一山修造系 國家興廢一民憂

ものよりかわるま抄本にこそくとも  
今もむらゝんは殊にもあつて

もねしといけきくふけ坊のぬいけふ三光坊ふり巻  
漢流りとして南音の法師雲公増部根息乃阿浮  
院の像たふもせはんともいふもねすも音容そ航  
ふやふも及んたふんふんふんははははははははは  
きぬふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん  
しめぬふんふんふんふんふんふんふんふんふんふん

何さよけさして船のかれおむせといふ向て 岸系乃む  
もらるる字・長老神宗よそ話あり

わらぬのこひ言のらひいふかへん  
切きしとむ法のこそいふ

社願一十五首奉納のきあかり一巻はうらうれ  
らうり梶井宮母きふらうり・経巻法師らうり十五  
さいと見ゆるとは・是も城子十五首とつゝ絵らうり  
まねらうり・あうり・あうり・あうり・あうり・あうり

身の御傍ゆきむらうりさのさうり  
からむらうりあうり

歌十五首和歌

秋風

袖のくしよはらふの秋風  
多し婦をせしむる秋風

秋落

梅の落しはふしの葉の志の葉  
ちかむる女の切なむ思ふ

秋月

月からふ露のしらむ秋  
うほれし秋のよきし

妹雨

いひたる電をたれ吹らる

路のよはれぬあつたぬ

秋花

山ゆにありの秋葉の志の葉  
ふ葉の花とよはれぬ

秋鷹

よまはるははらぬあつたぬ  
うらむははらぬあつたぬ

妹鳥

秋のよはれぬあつたぬ  
うまきをたれ吹らる

秋鹿

音方烟くく思ひゆく妻とてかき  
山とく麻のむかひのさ

秋氷

月わさぬ堤の柳らまな水  
江の氷はくき舟のこ

秋霜

菊子まよふとゆとせのあは  
きまてみり入るるあし

梅祝

梅のらふおとむいそあは  
山のさくはれぬとあは

秋猿

ゆきまみれ向山もあは  
きらむとく思ひゆくあは

秋恋

心ゆく縁のあはかき思ひゆく  
山とまろ尾のあはれ夜のあ

秋思

我のふりかき思ひゆくあは  
人かき思ひゆくあは

秋雅

さくく思ひゆくあは

浪の海へらるる木のたね  
高野山各活紙

同

伊予一年の海へらるる木のたね  
こもれぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
よもぎもあらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
宿巴もはらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
ゆめもはらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
あけぼのもはらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
しらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
とて人のたねはこもれぬ花のたね

らぬ人のたねはこもれぬ花のたね  
二年二月廿三日のたねはこもれぬ花のたね  
思ひのたねはこもれぬ花のたね

あけぼのたねはこもれぬ花のたね  
しらぬ花のたねはこもれぬ花のたね

あけぼのたねはこもれぬ花のたね  
しらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
よもぎもあらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
宿巴もはらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
ゆめもはらぬ花のたねはこもれぬ花のたね  
あけぼのたねはこもれぬ花のたね  
しらぬ花のたねはこもれぬ花のたね

ふいらまの氷の境よ志おこり  
ふかりし年の形もわづらひ

いづれの山野かよふか海とて。天神の衆よ  
きりかへせよ。木も鳥も。衆の衆か。雲も。水  
も。いづれの山も。鳥も。水も。衆の衆か。雲も。水  
の衆も。いづれ

春よもに栞のときさふ

わだこしうもふしうもたれらる

かき板あへり。般若寺の文殊堂よ。まきまきよ。まき  
か。まきまきよ。般若寺の文殊堂よ。まきまきよ。まき  
まきまきよ。般若寺の文殊堂よ。まきまきよ。まき  
まきまきよ。般若寺の文殊堂よ。まきまきよ。まき

後きよめんらる

おひりし神のまきまきよ  
あきとゆきし神のまきまきよ

細巴

ふらかつるせのうみぬ袖乃らる  
まきまきよ。あきとゆきし神のまきまきよ

賽後黙禱 道中風雨難

雨後餘寒 春色微 白櫻未發 野梅飛  
天其一笠山三笠 為我龍神莫濕衣

うれらり言ふのかさう。羽の下の客養吉とてん  
りゆらり人ともみきう。まきまきの魚とけりき





紹巴

ねこと免ねは北のむかし春風の  
花はらばららの糸ひかへり

也きこへり

いふはらばらとらまはし花橋

くはらばらとらまはしとらまはし

らららららららららら

何きこへり山眉のむかし

あはれはらばらとらまはし

不退寺子ほりしとらまはし自筆の歌はらばら

とらまはしとらまはしとらまはしとらまはし

けしきれきこへり山眉のむかし  
顔の美繁端のむかし

まきこへり山眉のむかし

いふはらばらとらまはし

是ら法華寺海法寺超務寺西大寺

さてはらばらとらまはしとらまはし

いふはらばらとらまはしとらまはし

伊はらばらとらまはしとらまはし

外はらばらとらまはしとらまはし

提寺薬師寺大木寺元真寺

とらまはしとらまはしとらまはし



知れぬ ありし 田舎  
河原の 野の 花の中道

内山より 寺へ 長岳寺 釜口と号す

二夜とありし 母寺の 守護柳

三宿とありし 柳が 夜を

河原の 寺の 夜を

きん二六時中 愛深明王の 不退の 法衣護持の

らぬしき

里人の 寺に

蒲の 若き

廿七日 柳を 寺に

愛深堂前 巻繞松 方池 龜出 水落

忽除葉 障洗 禪燈 立一時 中不退 鐘

又寺の 柳を 寺に

寺の 寺に

廿八日 柳を 太神 寺に

河原の 寺に

寺の 寺に

寺の 寺に

寺の 寺に

寺の 寺に

寺の 寺に

土師のきりぬみらかき。現當と奉り給はらし神。  
 秘すやかきまじり。神家ののり。世にきりぬみらかき。  
 してきりぬみ。神家ののり。神家ののり。神家ののり。  
 り。神家ののり。神家ののり。神家ののり。神家ののり。  
 け木ののり。神家ののり。神家ののり。神家ののり。  
 のり。神家ののり。神家ののり。神家ののり。神家ののり。  
 丹をきりぬみ。神家ののり。神家ののり。神家ののり。

うぬも又や待らぬに備のり  
 苑のきりぬみ神のきりぬみ

らまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

船巴

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

うらまのりぬみ

物語のうき... 花のうき...  
あふれ... 花のうき...

花のうき... 花のうき...

おそのの... 花のうき...  
おそのの... 花のうき...  
おそのの... 花のうき...

おそのの... 花のうき...  
おそのの... 花のうき...

おそのの... 花のうき...  
おそのの... 花のうき...

おそのの... 花のうき...  
おそのの... 花のうき...

あまのつとむらひのりくきり寺

あけがたの光りやみせしむ

松林戴々 晚霞間 鳥語鯨聲寺更閑

武是元来 交事 談鋒可濟 然語山

坊の妙興 けりしむらひのりくきり寺

云寺よまの字 好まの 几雲の 觀者よまの 此寺 此寺

の けりしむらひのりくきり寺の 好まの 志きく けりしむらひ

楊寺を太子の言 容辨み してまの 此寺 何まの 此

寺は 此寺の けりしむらひのりくきり寺 楊の 木の 字は

實まの のりくきり寺 觀の 山と 佛の 頂の 山と 号し 石碑の あり

且又 佛の 頂の 山の 字は けりしむらひのりくきり寺 今まの けりしむらひ

山よのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺 堂前乃

けりしむらひのりくきり寺の 花の下まの けりしむらひのりくきり寺

法の 云の 字は けりしむらひのりくきり寺 天は けりしむらひ

けりしむらひのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺

けりしむらひのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺

實まの のりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺

けりしむらひのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺 本部の 文殊堂 此寺

若くは けりしむらひのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺

けりしむらひのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺

けりしむらひのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺

けりしむらひのりくきり寺の けりしむらひのりくきり寺

程のくさし野よしまぬ萩か。何となくと今  
道にさした野のり。思ひ免くく。種成とか。さ  
とれと免る。あとなむ。

あまきしまあやらし野の

か。し今夜。ま田泊旅の寺よと。ゆめ。この寺の  
後又出世して。うらむ。人あま。山蔵のこ  
ふとほ。あか。こみら。あま。あま。あま。  
き。あま。

あまの寺と。あま。曲にま。あま。あま。  
あま。あま。あま。あま。あま。あま。

あまのあま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あまのあま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あまのあま。あま。あま。あま。あま。あま。

三月一日。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あまのあま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あまのあま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あまのあま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あまのあま。あま。あま。あま。あま。あま。





きしらふ。又もしらふ。しらふ。子草。

はらう。あまのうらみ。うらみ。

この様のもをいひて。山と。晴る。山中。火。不。え。く。  
し。ら。ふ。又。大。さ。か。の。木。や。き。き。物。の。他。ら。も。も。も。の。う。ら。み。  
ほ。り。の。し。ま。右。山。た。と。わ。か。さ。谷。り。の。う。ら。み。火。を。い。ら。  
木。の。下。と。と。い。は。れ。の。雨。も。も。避。雨。の。後。と。す。く。ら。ら。し。か。  
く。と。か。も。ま。ら。う。は。け。な。れ。し。杜。康。の。か。は。り。の。水。村。山。  
わ。ら。り。の。う。ら。み。橋。う。ら。わ。ら。り。の。う。ら。み。水。村。山。  
都。周。旗。風。の。と。と。と。杏。艶。桃。嬌。奪。奪。晚。霞。の。う。ら。み。  
ら。か。き。し。ら。う。ら。み。の。う。ら。み。節。日。の。盃。の。う。ら。み。の。う。ら。み。  
う。ら。み。母。の。き。に。は。れ。水。と。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。

し。ら。げ。の。花。の。雨。氣。と。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。  
繪。も。と。ま。り。ぬ。後。夜。の。念。仏。を。と。独。り。と。り。の。う。ら。み。  
四。日。高。天。ち。も。う。ら。み。初。陽。每。朝。来。の。梅。の。樹。ら。う。ら。み。  
比。の。風。も。わ。れ。も。う。ら。み。一。夫。も。う。ら。み。敷。園。枯。朽。  
あ。ま。の。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。

枯。も。も。に。梅。も。も。う。天。の。花。の。う。ら。み。  
八。雲。風。が。も。も。う。ら。み。と。う。ら。み。の。う。ら。み。

梅。花。の。ま。介。り。う。ら。み。

来。て。し。ら。う。の。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。  
う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。

う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。の。う。ら。み。

うまゆのすめこそ。あつきの金剛山と云ふ。  
この山の若もつた。於南海有一淨土。在説法法喜并  
若金剛山の若文也。この世のわかれなり。今もつた。  
あり。此。鳥のきしむ。さる。雪のうら。山。は。  
ぢも。冬。の。り。り。け。あ。ま。の。う。れ。液。子。の。か。い。  
め。こ。ゆ。と。人。の。申。き。字。時。時。わ。ら。し。て。の。か。う。は。あ。  
ゆ。し。う。も。あ。こ。き。き。い。と。炸。火。の。と。あ。ま。ら。し。  
乃。も。あ。の。寒。も。は。く。冷。ふ。あ。も。ね。く。延。公。お。と。云。  
わ。ら。ま。由。か。め。通。り。か。く。及。あ。ま。山。の。い。か。る。  
あ。ま。の。と。ま。あ。り。り。し。り。た。ま。ね。と。い。は。は。ま。あ。  
衆。輩。絶。頂。金。剛。窟。 行者。高。殿。路。轉。迷。

今日 初葺禪悦食 相盟法喜法身妻  
かこし法在并。役行者ゆへ。あまら。あつたの神。い。橋  
あ。ま。の。始。一。本。の。と。け。り。見。て

末とあつた。あ。ま。い。ち。か。き。く。ん。な。あ。  
あ。ま。の。あ。ま。ら。ま。き。れ。う。ら。の。神。  
紹巴

まの目し。あ。ま。の。あ。ま。ら。あ。つた。  
花。の。あ。ま。の。あ。ま。ら。  
あ。ま。の。あ。ま。の。あ。ま。ら。あ。ま。の。あ。ま。ら。  
ま。の。あ。ま。の。あ。ま。ら。あ。ま。の。あ。ま。ら。  
ま。の。あ。ま。の。あ。ま。ら。あ。ま。の。あ。ま。ら。  
ま。の。あ。ま。の。あ。ま。ら。あ。ま。の。あ。ま。ら。



あはれなる心はわが身をたもてる  
あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

結句

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

結句

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

あはれなる心はわが身をたもてる

又言田泊瀬が極樂寺なり云々

七日きり志保よりしらぬすて。廿首當座より  
八日きり寺のまじり同法。瑠璃壇が先  
外より又きり海き九品の上海物何きなり

九品がのそれる衣の八重うきなり  
九品がのまののしきり

澤殿の道より大野あり。長よりしらぬ  
ゆきより森のしきりぬきり。免養  
麦。去風。動揺とさるるあり

りしりやあり大野とまゆなり  
麦しりしりしりしりしりしりしり

澤殿よりきり中野より七仙也。雪霽毎夜より  
水。系法より結つ地とも水しきり。系と  
結つ橋とて。さらして結つ。花が交りしり  
きり。酒の外も。結つ志と。りきり。序  
法水明とあり。夜と。りしり

霧のりしりしりしりしりしりしり  
きりしりしりしりしりしりしりしり

江巴

行ふゆ。りしりしりしりしりしりしり  
去のりしりしりしりしりしりしり

今朝より餘寒き。りしりしりしりしりしり

建磨寺

銘

春の日の光を照らす御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

二の石の御影の御影の御影の御影

一先立の御影の御影の御影の御影

隆寺の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

合村禱式二振の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

物の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影

の御影の御影の御影の御影





いぬりて・福生院と云々・かひにけり。此沙阿の法にて  
とれ若しあらうらまると・中堂のけりぬ・妙法にけり  
二方儀のあかみて・福鏡もいけり。是より河内國  
八尾木の金剛蓮花寺と云々と云々・あつたはまきり  
大日如来の像と云々・思ひまけり。その人のいふ  
母八尾と云々の高の乃枕のり。これ此の八尾と云々  
かきかへり。けり尾と八尾もいふ。さういふ。

若しにさうもせけんしんといふの  
八尾の桂八もせけんのか  
とある書にて。是より神廟の木の末乃向の寺と云々  
うれ木のともと云々・あつたはまきり。太子の所影開帳の

かきかへり。けり尾と八尾もいふ。さういふ。

あつたはまきり。太子の所影開帳の

紹巴

あつたはまきり。太子の所影開帳の

かきかへり。けり尾と八尾もいふ。さういふ。

かひしすかへはらまゝの御入は  
しをゆかす。信ちりのゆめ  
袖のあやゆきとをえり信のけり  
きし方れあけられわきよ

紹巴

きまらくし流るるん信のけり  
ゆりた疾ゆし信はたきり  
海のけりたあらはれはてきまらるるん信のけり  
とくまて。きまらるるん信のけり  
ゆりた疾ゆし信はたきり  
かへらの御入。大覺寺のゆめ。野路井とて  
人かひすかへはらまゝの御入

かへらの御入。大覺寺のゆめ。野路井とて  
人かひすかへはらまゝの御入

かへらの御入。大覺寺のゆめ。野路井とて

かへらの御入。大覺寺のゆめ。野路井とて  
人かひすかへはらまゝの御入

かへらの御入。大覺寺のゆめ。野路井とて  
人かひすかへはらまゝの御入



高僧女のせらりしはまゝに居たり。はるかにしりし書り  
おしりし。うゝとあし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
若くは。大し。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

信已

あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

五

あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

うらたは。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。

あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。  
あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。あまし。





月... 昔の高山の流... 蔵か... 日と送... 思... 二百類... 仍兼... 由... 何... 百類の... 申... 還向... 毎...

無... 西... の... 蘇十六首和歌 首領若手

あ... 葉... 夜... 夜... 夜...

い  
 か  
 と  
 い  
 かくしとつくと松出り物  
 いかん月あらしも秋の  
 う海も女も秋の  
 かんんしと想わんと軒の古音  
 かしら月のかきつる  
 りききのついで月つた  
 花よりちりつるの山  
 くらとよおほくの音あか  
 ききとつるついでつる  
 りつるつるつる声  
 くらつるつるつるつる  
 くらつるつるつるつる

い  
 せ  
 れ  
 い  
 か  
 き  
 いへーやらの望月つる物  
 何ぞの音あかしらつる山  
 きれつるつるつるのつる  
 山つるつるつるつるつる  
 おもひつるつるつるつる  
 くらつるつるつるつる  
 くらつるつるつるつる  
 くらつるつるつるつる  
 くらつるつるつるつる  
 くらつるつるつるつる  
 くらつるつるつるつる



わが方の老母稱う勢方の此と  
此にわがは必らうのあまねといふ  
何せしらせせり秋と笑らるる

この歌は浄流して金后別名あり

か ずらに夜も若の女も思ふ月夜は  
枕もさしていふぬをらうの情

い しきき紅の色かひらに夜も静ま  
らぬ情をうらむ思ふのくれば

か みのれ海やうらみの月夜も老もや  
秋の夜中涙もあまをたてて終夜

よ ともわがはよせあまをたてて終夜

か けふはとらもむらに秋もあ

い 海も一の秋とあまをたてて終夜

え けふはのとあはれかたうとあはれ  
わがあまや我にかたうとあはれ

い ちとれまに秋もあまをたてて終夜

く ちとれまに秋もあまをたてて終夜

あ ちとれまに秋もあまをたてて終夜

い かし玉の髪をさめてのしらぬ  
 けり曲拂はちかしのね  
 きにさるる心も月白と暮は死  
 秋の風をたのびての若くは  
 ととさいて吹ぬ海もさうさ  
 ともはらひてゆく神の秋風  
 い せむしつる身とさうさ  
 りともはらひてゆく神の秋風  
 か めんめつと暮提の心  
 き せむしつる身とさうさ  
 りともはらひてゆく神の秋風

りらららららららららら  
 けり曲拂はちかしのね  
 きにさるる心も月白と暮は死  
 秋の風をたのびての若くは  
 ととさいて吹ぬ海もさうさ  
 ともはらひてゆく神の秋風  
 い せむしつる身とさうさ  
 りともはらひてゆく神の秋風  
 か めんめつと暮提の心  
 き せむしつる身とさうさ  
 りともはらひてゆく神の秋風

全后 大覚寺  
義俊院  
 秋風や月と海もさうさ  
 宗養法師  
 かし玉の髪をさめてのしらぬ  
 けり曲拂はちかしのね  
 きにさるる心も月白と暮は死  
 秋の風をたのびての若くは  
 ととさいて吹ぬ海もさうさ  
 ともはらひてゆく神の秋風

い しーの言も少麻の教もいふの言は  
 ことたり 浄法なりつることし  
 小 中なりしとをいふ事ふとてい  
 う此邦のわりの草のいふ事  
 夜とまむみ我とていふ事なり  
 衣よりいふ事いふ事いふ事  
 い ことありし秋のいふ事いふ事  
 事ありし秋のいふ事いふ事  
 日 六我とてわつこといふ事いふ事  
 路へのいふ事いふ事いふ事  
 い ことありし事いふ事いふ事

く ことありし事いふ事いふ事  
 り 月ありし事いふ事いふ事  
 い ことありし事いふ事いふ事  
 せ ことありし事いふ事いふ事  
 に ことありし事いふ事いふ事

い ひりよきく 権ありぬしゆりいり  
 むらの魚 まのちねのねき  
 月も出さぬ本もに月もあき  
 ぬりしとみ神とくをとらる  
 り免のころ 夏にわらうらに橋  
 びんぬりて夜にきく 橋ま  
 片もれ丹とくまのきく 橋の  
 けし山ゆに寺とくと思ふ  
 女 若狭のりんか魚をさう 橋とく  
 わくく 花路の神のい  
 紹巴法師

い じりしとみ 権ありぬしゆりいり  
 二のう 魚のねき 言のぬ  
 二 よはふし 善何しとく 成りや  
 野わらばきとぬ 橋のい  
 りやぬ 手取りしとく 麻のい  
 石もい 橋のい 言のい  
 むしり 指のい 月もい  
 月も出さぬ 本もに月もあき  
 いりしとみ 神とくをとらる

くの  
 月の光を  
 うららかに  
 照らす  
 影の  
 長さを  
 測る  
 月の  
 光を  
 うららかに  
 照らす  
 影の  
 長さを  
 測る

留題 皓月 江山一覽之麓下

月の光を  
 うららかに  
 照らす  
 影の  
 長さを  
 測る  
 月の  
 光を  
 うららかに  
 照らす  
 影の  
 長さを  
 測る

月明皓々夜沈々  
 去此清光何處尋  
 不換三公子陵瀨  
 江山一覽主人心

金后有尊和

江月水流昇又沈

江山一覽不勞尋

秋宵對榻共閑話

塵外相逢世外心

いりし野の紀行

平氏康

天文十五年仲秋の夜。予きり路とらんを。けし月  
にまひき地ぬ。半句れ。人こら。ま。い。ら。は。は。は。  
小春。う。ら。り。て。か。を。ん。も。う。れ。か。の。装。束。に。  
ら。ま。ら。ら。葉。ま。の。う。ゆ。ら。ま。ゆ。ら。て。ら。ら。い。あ。い。あ。  
ふ。の。古。跡。と。め。う。ま。八。幡。山。う。四。方。の。ま。い。れ。と。あ。り。  
め。小。磯。大。磯。と。見。わ。せ。せ。し。こ。う。や。か。と。あ。ら。は。は。あ。り。

らららとくとられし

と鴨のきり赤皮のしきり

らまのまゝとせとよきとや

大磯の波らとわきしけりかは

うねとわきしきりこけり

まらりー庚子のと。岩船の事ありてけきまゆりし

きり。ゆり。八。を。ら。ま。り。其。成。り。ん。と。は。ま。は。は。

わら宮のまらりし

あのみらーあ。と。れ。の。ゆ。り。八。幡。山

あ。の。ま。ら。り。の。ま。ら。り。の。ま。ら。り。

らとあ。の。ま。ら。り。の。ま。ら。り。の。ま。ら。り。の。ま。ら。り。

古跡と海あり。いづれも後沃の如松井の者よ。三田野の  
忠臣宗の者あり。夜とあり。いづれも。いづれも。いづれも。  
きのの儀とよ

記のよきららるる。海濱の夜  
いづれも。いづれも。いづれも。

比の八月下旬。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。  
いづれも。いづれも。いづれも。いづれも。

よしつらぬ。ゆらやわらわらしき。たの巻よか  
河も芳とわさくんと。わらわ。うれあ。大灰の  
店めや。海野の。ゆら。す。わ。に。は。あ。河  
つ。と。わ。ら。ぬ。も。よ。あ。は。の。の。の。の。  
あ。に。鳥。の。も。わ。お。て。奥。と。ら。り。し。き。は。わ。ら。し。と。  
ね。い。わ。ら。し。

都島とみかづき舟のり

あ。と。の。人。名。の。み。わ。ら。し。  
い。う。い。の。岩。房。上。縁。ま。の。り。わ。ら。し。子。見。わ。ら。し。と。あ。  
葛。西。の。名。浄。真。寺。の。長。光。と。半。鐘。よ。と。ら。し。  
う。遠。よ。ら。し。の。寺。の。ま。ら。し。一。名。と。ら。し。

き。れ。き。れ。と。河。と。わ。ら。し。の。寺。の。り。と。岩。と。ら。し。夜  
よ。入。院。の。や。ら。し。吹。ゆ。ら。し。松。風。入。翠。と。し。事。は  
思。い。わ。ら。し。

松ののちのつらき

あ。ら。ぬ。と。弱。と。わ。ら。し。か。ら。ん。と。と。の。道。は。し  
か。ま。ら。ぬ。と。ら。ぬ。ま。の。強。つ。と。い。の。教。は。ら。し。と。  
り。は。は。し。月。中。旬。と。わ。ら。し。小。田。原。よ。と。ら。し。と。  
き。れ。



扶桑拾葉集卷第二十五終

